

第38回 市議會 臨時會
內務分科委員會

1 9 9 5 年 度
主 要 業 務 報 告

消 防 本 部

報 告 順 序

☐ 一 般 現 況

☐ 市長指示事項實踐

☐ '94 消防行政成果

☐ '95 主要業務計劃

☐ 特 殊 施 策

一 般 現 況

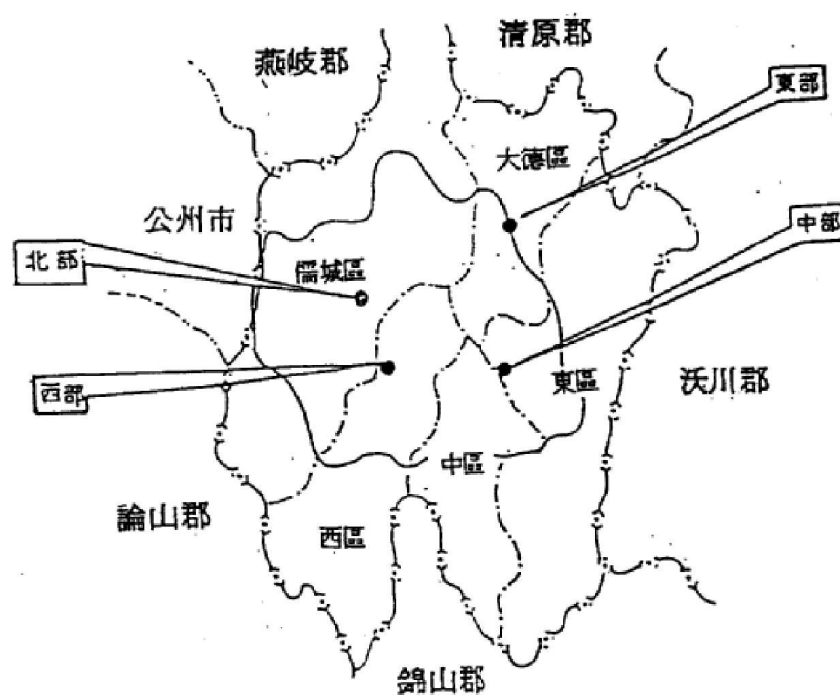
主 要 內 容

1. 管 轄
2. 消 防 力
3. 準 消 防 力
4. 消 防 豫 算
5. 消 防 對 象 物
6. 火 災 發 生 狀 況
7. 救急, 救助活動狀況

□ 管 轄

消 防 署	消 防 派 出 所	面 積	人 口	世 帯 數
4 個 署	20 派 出 所	536.86 km ²	1,250千名	365 千世帯

※ 5 區 84 洞



□ 消 防 力

○ 消防人力

(名)

區 分	計	消 防 職			技能職
		小 計	國 家	地 方	
定 員	627	619	1	618	8
現 員	604	596	1	595	8

○ 車輛裝備

(台)

計	펌프車	물탱크車	高架사다리車	屈折사다리車	化學車	照煙車	救助工作車	救急車	巡察車	指揮車	굴삭기	乘用車	診斷車	貨物車	其他
95	36	5	4	5	7	1	2	15	5	5	.	6	3	1	.

○ 用水施設

(個所)

計	消 火 栓	貯 水 槽	給 水 塔
1,013	829	69	115

□ 準 消 防 力

○ 義勇消防隊等

計	義 勇 消 防 隊			婦女義勇 消 防 隊
	小 計	本 隊	地 域 隊	
36 個隊	32 個隊	4 個隊	28 個隊	4 個隊
897 名	738 名	123 名	615 名	159 名

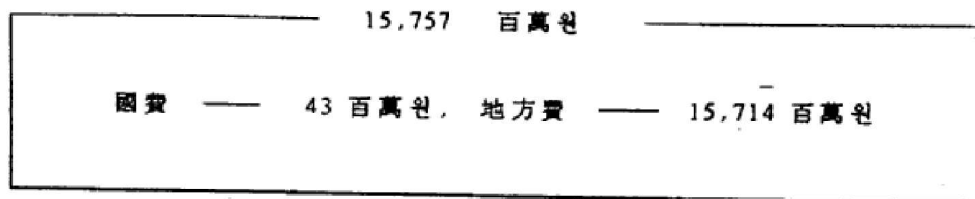
○ 職場自衛消防隊

計	販賣施設	宿泊施設	業務施設	工 場	其 他
2,526 個隊	69 個隊	387個隊	253個隊	228個隊	1,589個隊
111,563 名	3,366名	5,067名	15,110名	22,165名	65,855 名

○ 其 他

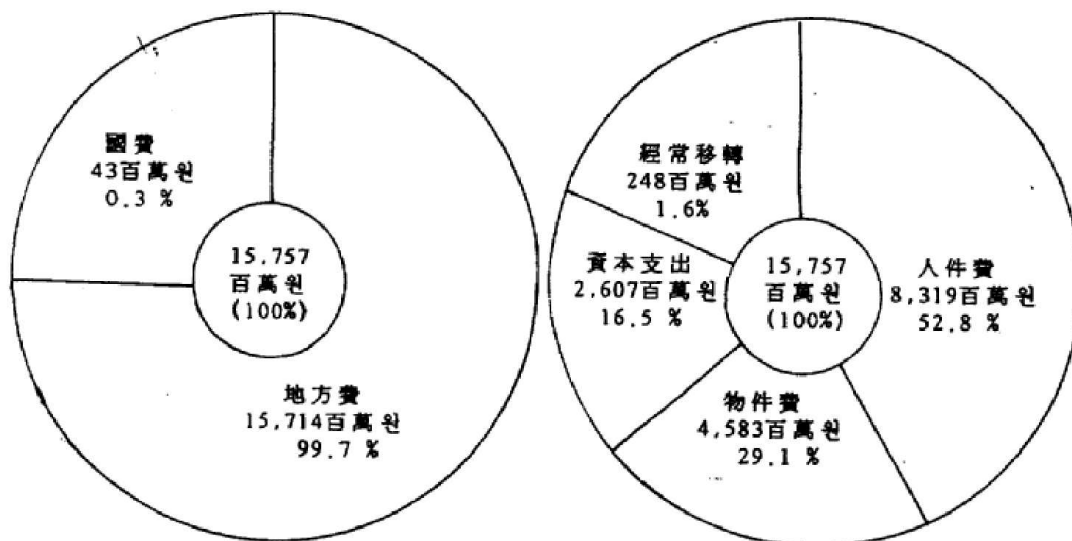
計	어린이消防隊	請願消防員	危險物安全 管 理 者	防火管理者
12,494名	189 個隊 7,771 名	20 個隊 98 名	1,879 名	2,746 名

□ 消 防 豫 算



○ 財 源

○ 構 成



※ 共同施設税 : 6,627百萬圓 ('94 對比 7.8% 増)

☐ 消 防 對 象 物

☐ 特殊場所

(個所)

計	近隣生活施設	慰樂施設	觀覽・集會施設	販賣施設	宿泊施設	老幼者施設	아파트 및 寄宿舍	業務施設	教育研究施設	工場	危險物貯藏取扱施設	其他
11,074	4580	108	66	125	775	143	1859	577	287	771	797	986

☐ 高層建物

(棟)

計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15層以上
4,002	1,329	1,074	121	72	46	43	64	13	93	93	81	973

☐ 危險物製造所等

(個所)

計	製造所	注油取扱所		販賣取扱所		移動 탱크	一般 取扱所	貯藏 取扱所	少量 取扱所
		營業	自家	石油	特殊				
2,861	6	208	37	167	3	388	1,411	21	620

□ 火災發生狀況

○ 火災統計

發生內容(件)				人命被害(名)			財産被害 (천원)	焼失内容	
計	失火	放火	其他	計	死亡	負傷		棟數	面積(㎡)
555	336	39	180	54	10	44	2,095,109	294	20,531

※ 原因別：電氣 166, 불장난 48, 放火 40, 담배 29, 가스 22件 順

處種別：住宅 117, 車輛 87, 工場 46, 店鋪 46, 飲食店 45件 順

※ 前年對比：20件(3.7%増), 2名(3.8%増), 344,150千圓(19.7%増)

□ 救急・救助活動狀況

○ 救急實績

計	(名)								
	急性疾患	慢性疾患	妊産婦	一般負傷	가스中毒	藥物中毒	火傷	交通事故	其他
7,119	2,966	1,569	177	966	33	282	34	520	572

○ 増加趨勢

年度別	'90	'91	'92	'93	'94
移送實績	3,268	4,872	5,033	5,534	7,119

○ 救助實績

計	火災	交通事故	水難事故	建物崩壊	其他事故
494件 136名	265件 27名	137件 50名	3件 2名	1件 2名	88件 55名

市長指示事項實踐

○ 總指示件數 : 12 件

(完了 10, 推進中 2)

○ 主要推進完了事項

- 消防脆弱施設에 對한 豫防點檢實施
 - ・ 對象 : 3,153個所 (脆弱對象, 市場, 商街, 慰樂施設等)
 - ・ 期間 : '94. 7. 30. ~ 10. 14.
 - ・ 結果 : 良好 2,688個所, 不良 465個所
 - ・ 措置 : 不良 465個所 是正措置 完了

○ 主要推進中인 事項

- 消防裝備의 現代化
 - ・ 車輛增車 : 11台 ('94. 第2回追更 및 '95本豫算)
 - ・ 老朽車輛 : 13台 ('95本豫算)
 - ・ 95 追更確保 : 17台 (펌프 3, 化學 2, 救助 1, 救急 6, 물탱크 1, 굴삭기 3, 貨物 1) - 國費支援 232,500千圓
- 겨울철 火災豫防 徹底
 - ・ 火災脆弱對象 特別 精密診斷 : 1,118個所
(大型 107, 人命被害憂慮 732, 生活周邊危險施設 279)
 - ・ 診斷期間 : '94. 12. 7 ~ '95. 2. 28
 - ・ 火災警戒勤務 및 巡察活動 強化
 - ・ 火災鎮壓態勢 確保
 - ・ 有關機關 共助體制 構築

'94 消防行政의 成果

圖 國際化, 開放化 趨勢에 副應하여 消防行政도 變化에 積極的·能動的으로 對處하였으며, 또한 第 75 回 全國 體育大會의 成功的 開催를 爲하여

- 先進消防의 構築 ◦ 自律消防의 定着
- 奉仕消防의 擴大로 定하고 着實히 推進한 結果

○ 先進消防의 構築을 위하여 消防派出所 2 個所 増設과 西部消防署에 119救助隊의 設置로 消防行政機能을 補強하고 教育訓練을 內實化하여 專門人力 養成에 主力하였으며, 火災豫防·鎮壓을 위해 裝備 8台 増車, 8台 대메車 및 消防用水施設 34個所 補強等 完備한 鎮壓體制를 構築하고 大型火災脆弱對象管理對策으로 精密點檢 2回, 消防巡察 24,300 回, 幹部責任擔當指導制 36 回, 防火管理者教育 2回等 大型火災 脆弱對象에 대한 集中管理로 한해동안 한 件의 大型火災도 없었음.

○ 自律消防의 定着에 있어서는 火災豫防을 위하여 現場活動을 통한 消防弘報에 力點을 두어 火災, 救急狀況을 TV, 유선放送(368回), 新聞, 雜誌(89 回)等 報道機關에 隨時 依賴하고, 불조심캠페인(28回 1,746名) 實施와 유인물(100,850枚)을 배포하는등 積極的인 弘報를 通하여 火災豫防의 效果를 舉揚하였음.

또한 消防關聯 組織인 義勇消防隊, 職場自衛消防隊, 어린이消防隊의 組織을 再點檢 整備하여 消防要員으로서의 基盤을 튼튼히 하고 整에화 시켰으며, 特히 義勇消防隊의 消防活動 強化로 부족消防力 補完과 地域防災 求心組織으로써의 役割을 다 할 수 있도록 士氣 振作策을 積極 推進하였음.

※ 士氣振作 實績

- ・ 懇談會및 對話의 時間 : 9 回 307 名
- ・ 隊員子女獎學金 支給 : 2 回 58 名 21,670千원
- ・ 先進地 見學 : 1 回 54 名
- ・ 隊 員 表 彰 : 9 回 63 名
- ・ 出動 手當 支給 : 107 回 156,130千원
- ・ 被 服 支 給 : 197 着
- ・ 自然環境保全 名譽指導官 委囑 : 67名

○ 奉仕消防擴大에 있어서는 119救助·救急活動을 強化하여 人命救助 136名, 救急患者移送 7,119名, 旱害地域 給水支援等 消防官署에서 市民에게 提供할 수 있는 여러가지 서비스를 實施하여 信賴받는 奉仕行政을 實踐하는데 努力하였음.

■ 앞으로의 課題

날로 增大되는 市民의 安全欲求에 積極的인 對處를 爲하여 밖으로 救助·救急 奉仕活動의 領域을 擴大시키고 안으로 職員에 對한 高度의 專門技術 習得과 狀況 對處能力을 向上시키는等 市民에 對한 直接的인 奉仕消防行政의 擴大가 더욱 必要함.

'95 主 要 業 務 計 劃

'95 消防行政의 基本方向

消防與件

○ 「消防行政의 世界化」 推進을 爲하여

- 消防公務員으로서 未來指向의 姿勢 確立
- 消防環境 變化에 積極的·能動的 對處

○ 「市民과 함께하는 親近한 奉仕 消防」을 爲하여

- 救助·救急 奉仕業務의 擴大 施行
- 모든 災害에 迅速한 對處로 奉仕消防 이미지 提高

世界化 元年의 해



基本方向

- 未來指向 消防의 構築
- 自律消防 制度의 定着
- 奉仕消防 領域의 擴大

5大 重 點 施 策

1. 未來指向 消防體制 構築
2. 奉仕消防 領域의 擴大
3. 大型火災 豫防活動 強化
4. 鎮壓消防能力의 向上
5. 自律 消防制度의 定着

1. 未來指向 消防體制 構築

□ 消 防 力 補 強

- 消防組織과 管理體系를 地域 特殊性에 맞게 基本消防力 補強
- 複雜多樣한 消防環境에 能動的 對處로 對民 奉仕行政의 效率性 提高

○ 機構補強

- 消防官署新設 : 1官署 (山城派出所)
- 救助・救急 全擔部署 設置 : '95 上半期
 - 消防本部 : 救助・救急課
 - 消防署
 - └ 西部消防署 : 救助・救急課
 - └ 其他消防署 : 救助・救急係

○ 人力增員 68 名

- 機構補強人力 : 45名
- 裝備運用人力 : 23名

○ 車輛增車 37 台

- 新規車輛購入 : 24台 ('95 本豫算 確保 7台, 其他 追更 確保)
- 老朽車輛交替 : 13台 ('95 本豫算 確保)
- ※ 高架사다리車 1, 펌프 9, 救急 3

□ 優秀消防人力의 確保・養成

- 「科學消防，先進消防」의 早期實現 基盤 造成
- 環境變化에 能動的 對處 및 消防組織의 活性化

○ 優秀人力 持續的 確保

- 第 8 期 消防幹部候補生 任用 配置
- 優秀專門入力 新規採用
 - 公開競爭採用：10 名（消防分野）
 - 消防優秀 專門入力 特採：8 名（119救助隊員）
- ※ 救助隊員：軍 特殊兵科（空輸部隊，海難救助隊員）出身者 特採

○ 優秀專門人力 養成

- 消防關聯 資格證 所持者 關聯分野 配置 活用
- 消防關聯學科 出身者 別途 管理：41名
 - ・ 職務 專門教育 實施：中央消防學校 및 忠南消防學校 委託 教育
 - ・ 專攻 關聯部署 長期 補職 賦與：業務의 專門化 推進
- 救助・救急要員의 專門化 養成
 - ・ 119救助隊 特採者 配置：'95 上半期（各署 2名）
 - ・ 救急隊員의 職務教育 訓練 強化

○ 救助・救急隊員의 士氣 昂揚

- 入事 優待 및 表彰 擴大
- 出動手當의 現實化

□ 教育訓練의 內實化

- 專門人力 養成으로 消防與件變化에 能動的 對處
- 奉仕 消防行政體制에 副應하는 專門知識과 職務遂行能力 培養

○ 消防學校 教育

- 新任教育 課程 : 1 個班 49 名
- 基本教育 課程 : 4 個班 27 名
- 專門教育 課程 : 12 個班 52 名
- 特別教育 課程 : 3 個班 20 名

○ 職場教育訓練 強化

- 精神教育 強化 (外來講師 招聘) : 分期 1 回
- 消防戰術 및 實技訓練 : 月 2 回
- 特殊火災 鎮壓訓練 : 年 2 回
- 新規任用者 職場適應 教育 : 新規任用時

○ 特別專門 教育

- 電氣,가스 安全管理 : 年 1 回
- 電算實技 教育 實施 : 專門機關 委託
- 豫防檢査官 養成 教育 : 年 1 回

○ 消防行政 研鑽大會 : 年 1 回

□ 公 職 紀 綱 確 立

- 消防 殘存不條理의 根源的 遮斷으로 깨끗한 消防象 具現
- 全 消防公務員에 대한 透徹한 公職觀과 確固한 使命感 鼓吹

○ 自體 監査・監察機能 強化

- 自體監査・監察要員의 精銳化 : 消防監察規程上の 資格要件
嚴格 適用
- 消防不條理 申告센터 活性化 : 電話開設 (本部 1, 消防署 4)
- 機關長 責任司正體制 確立
- 消防官署 定期 監査・監察 實施
 - ・ 綜合監査 : 1 回
 - ・ 部分監査 : 2 回
 - ・ 服務監察 : 6 回

○ 服弱業務 特別管理

- 消防 認・許可民願 業務
- 監督者의 不斷한 點檢 確認
- 民願人 1回訪問處理制 定着
- 不適格 民願擔當者 即時 交替

○ 特別精神教育을 통한 服務紀綱 確立

- 素養爲主의 特別精神教育 : 月 1 回 以上
- 民願擔當公務員에 대한 精神教育 強化 : 月 1 回 以上

2. 奉仕消防領域의 擴大

□ 119緊急救助・救急體制 確立

- 大型火災 및 各種災難發生時 迅速한 對處로 被害 最小化
- 各種災難管理에 對한 消防機關의 求心的 役割遂行 圖謀

○ 全擔部署 設置：'95上半期

- 消防本部：救助・救急課 新設
- 消防署
 - 西部消防署：救助, 救急課
 - 其他消防署：救助, 救急係

○ 救助・救急隊 補強

- 救助隊 補強：2個隊
- 救急隊 補強：6個隊（一般救急隊 5, 高速道路救急隊 1）

○ 救急・救助 活動 領域 擴大

- 各種 災害 積極 支援
- 關係機關과 緊密한 協助體制 維持
- 緊急災難申告의 一元化：119와 129를 119로 統合 推進
- 救助・救急隊 專門要員 育成 및 機資材 確保

○ 救助・救急 活動 弘報

- 119救助・救急隊 活動象을 各種言論媒體에 弘報
- 油印物等 配布 및 示範訓練實施 弘報

□ 多様な 消防サービス 提供

- 風・水害等 各種 緊急災難時 非常出動支援
- 市民의 不便・陸路事項 申告時 迅速支援・案内

○ 民生消防自願奉仕

- 風・水害 支援活動：有關機關 積極 協助
- 人命救助 및 救急 奉仕活動：119救助隊 및 救急隊 活用
- 山林火災出動 支援：非常連絡體制 維持

※ 豫想災害：山火，交通事故，建物崩壞，爆發事故，油類漏泄，
給・排水，가스 漏出等

○ 市民便益行政 擴大

- 消防樂隊 積極 支援：市民團體行事等
- 夜間當直病院 案内：市醫師協會 協調
- 消防施設 修理센터 運營：修理奉仕班 構成

3. 大型火災 豫防活動 強化

□ 大型火災脆弱對象特別管理

- 火災發生時 人命 및 財産被害가 클것으로 豫想되는 脆弱對象을 選定
- 消防安全管理體制를 構築하여 大型火災를 根源的으로 豫防

○ 大型火災脆弱對象 點檢

- 消防安全 點檢 : 年 2回
- 幹部責任擔當制로 不時 指導訪問 : 月 1回以上
- 環場行政強化 (本部長, 署長, 派出所長) : 月 1回以上 및 隨時確認

○ 防火營理狀態 指導 團束

- 消防機動巡察 : 每日
 - 消防官 固定配置 및 巡察
 - 市場等 脆弱對象 撤市確認
- 火災特別警戒時

○ 自律消防能力 提高

- 施設主 懇談會 : 年 1回
- 防火管理者 및 危險物安全管理者 教育 : 年 2回
- 合同消防訓練 : 每月

□ 不實工事防止를 爲한 指導強化

- 完壁한 消防施設 施工과 技術關聯 資格者의 健全育成 圖謀
- 運營實態의 持續的 指導監督으로 技術能力 向上

○ 運營實態 一齣點檢

- 對 象：消防施設工事業 33個所
- 重點點檢事項
 - ・ 工事 業種別 技術能力, 資本金, 施設裝備 確保 및 法令 遵守事項
- 措 置：違反事項 依法措置 및 制度改善 方案講究

○ 消防設備技術能力者 教育

- 對象：消防設備技士 (機械, 電氣 1,2級)
- 內容：改正 消防關係法令 및 消防施設 設計, 監理, 施工業務等

○ 消防施設 合同完工檢查制 實施

- 不實工事防止를 爲한 監理者, 施設主, 管轄消防署 合同檢查
- 消防設備 設計, 監理業體 指導監督 徹底

○ 消防施設 瑕疵補修 責任制 推進

- 對 象：모든 消防施設工事
- 推 進：內務部 (法令 改正 推進)
- 方 法
 - ・ 消防施設 工事業體가 瑕疵補修를 아니할때 消防安金技術審議 委員會의 議決을 거쳐 消防署長이 強制 執行

□ 불조심 生活化運動의 活力化

- 全市民의 불조심 生活化로 生活消防 早期定着
- 市民의 火災豫防意識 鼓吹 및 豫防消防 活性化

○ 消防官署에 常設弘報展示館 設置運營

- 新設消防署 : 新築時 150㎡以上 弘報展示館 設置 義務化
- 既存消防署 : 年次的으로 推進

○ 어린이 消防隊 組織整備 및 精銳化

- 時 期 : 新學期를 기하여 一齋整備
- 基 準 : 國民學校 1開校當 1個隊以上
- 對象人員 : 100名 內外

○ 어린이, 주부消防安全教室運營 : 分期 1回

○ 火災豫防弘報活動 強化

- 매스콤을 통한 對市民 弘報擴大 : TV, 라디오, 新聞, 有線放送等
- 市民情緒에 맞는 多樣한 弘報資料 開發 普及 : 標語, 포스터, 電話카드等
- 불조심 반사회運營 : '95. 10月 ~ '96. 2月

○ 火災豫防點檢의 날 運營

- 家 庭 : 家庭防火點檢의 날 指定運營 (每月 1日)
- 職 場 : 職場消防診斷의 날 指定運營 (每月 末日)
- 學 校 : 學校職場點檢의 날 指定運營 (每月 15日)

4. 鎮壓消防能力의 向上

□ 初期鎮壓 態勢 確立

- 迅速한 初期鎮壓 態勢確立으로 大型火災 未然 防止
- 消防裝備 補強 및 消防應援體制 強化로 被害 最小化

○ 迅速한 出動態勢 確立

- 不時 出動訓練 : 週 1回
- 圖上訓練 : 週 1回
- 假想火災 現地出動 訓練 : 月 1回

○ 火災鎮壓裝備 補強

- 火災鎮壓裝備 持續 補強
- 消防裝備 整備・點檢 : 日日, 週間, 月 間
- 消防裝備 檢閱 : 年 1回

○ 廣域 消防應援體制의 定着

- 消防應援體制 再整備 : 年 1回
- 應援出動訓練 實施 : 年 1回

□ 化學機動隊 設置・運營

- 有毒性 化學物質 取扱増加에 따른 事故發生에 對備하여
專門組織 育成
- 各種 化學物質災害時 緊急對應으로 被害 最小化

○ 化學機動隊의 設置・運營

- 設置單位：消防署別 1 個隊
- 構 成：救助車, 救急車, 高性能化學消防車
- 裝備確保：高性能 防毒面, 고무防護衣, 고무長靴, 掌匣, 保護眼鏡,
소석회 살포기等
- ※ 個人保護裝具 및 防毒劑 優先 確保

○ 有害物質 貯藏施設 現況把握管理 徹底

- 市・區에서 作成한 管理카드 消防官署에 備置 活用
- 管理카드 및 警方計劃圖에 의거 圖上訓練實施：分期 1回

○ 有關機關 相互協助體制 構築

- 市・區, 警察, 軍部隊, 危險物業所, 韓電, 通信公社, 醫療機關, 赤十字社等 非常連絡網 構築
- 地域軍部隊, 關聯業所와 裝備, 物資 保有現況 事前把握 管理

□ 迅速한 火災出動 環境造成

- 消防與件 脆弱地域 事前 障礙物 除去
- 火災發生時 初期에 迅速하게 鎮壓活動 遂行

○ 消防活動障礙要因 事前除去

- 對象：主要市場通路, 火災警戒地區, 住宅街 不法駐・停車蔓延地域,
高壓線으로 인한 消防活動 障礙地域
- 一齋調查
 - ・ 時期：'95. 3月 限
 - ・ 方法：警防調查時 竝行調查

○ 有關機關 合同團束 및 對策講究

- 協議會 開催：分期 1回
- 構成：市・區, 警察, 消防

○ 消防訓練의 內實化

- 消防車 通行訓練：月 1 回
- 深夜現地適應訓練：月 1 回

○ 弘報活動 強化

- 露店商 固定坐板 改善 指導
- 商街繁榮會 및 商人自體活動 展開 促求
- 言論等 弘報媒體 活用 弘報

□ 消防用水施設 擴充

- 消防與件 脆弱地域 事前 障礙物 除去
- 火災發生時 初期에 迅速하게 鎮壓活動 遂行

○ 脆弱地域 消防用水 補強

- 脆弱地域 優先選定 補強
- 屯山新市街地 造成 地域 消防用水施設 早速 引受
- 正確한 基準數 算定 年次別 推進 徹底

○ 消防用水施設 管理 徹底

- 施設狀態調查：定期, 隨時, 合同調查 (4月中)
- 故障 用水施設 迅速 補修體制 維持
- 管理者 指定等 用水施設 運營體制 整備
- 消防用水施設 運營 委員會 設置運營：年 2回
- 地下式 消火栓 黃色線 塗色

□ 消防無線 通信網 擴充

- 消防通信網 擴充을 통하여 難難地域 解消
- 火災, 救助, 救急等 各種災難時 보다 迅速하게 效果的으로 對處

○ 消防指揮 通信網 擴充

- 消防指揮 通信網 構築 : 11個所
(市長, 本部長, 消防署長, 區廳長)

○ 無線通信裝備 交替 및 整備

- 無線裝備 交替 (廣大域 裝備) : 121台
- 周波數 整備(狹大域 裝備) : 101台

○ 通信裝備 運營管理體制 確立

- 通信 및 電算專門要員 確保
- 通信裝備 定期點檢 및 巡迴整備

5. 自律消防制度의 定着

☐ 自律消防點檢體制 構築

- 消防對象物의 關係人이 自體消防施設 點檢
- 自體 點檢能力 培養으로 自律的 防火管理體制 早期定着.

○ 自體消防點檢 對象

- 防火管理者 選任對象 : 2,746 個所
- 一 般 對 象 : 8,328 個所

○ 自體點檢能力 培養

- 防火管理者 職務教育 強化
- 防火管理者 資格 取得 機會 擴大
- 消防施設 點檢代行業者 登錄, 育成

○ 自律消防能力 提高

- 月間・年間 確認 및 點檢計劃 樹立 實施
- 團束보다 指導로 早期定着될 수 있도록 啓導
- 消防檢查等を 통한 自體點檢 技術能力의 提高

□ 義勇消防隊 運營 內實化

- 地域防災 求心 組織으로 育成 發展
- 義勇消防隊員 士氣振作으로 參與意識 鼓吹

○ 義勇消防隊 機能強化

- 全隊員의 消防弘報, 豫防要員化 (婦女義勇消防隊員과 並行推進)
- 實質的인 教育訓練 強化 : 教官實務教育, 隊員教育・訓練, 特別教育等
- 忠南消防學校 委託教育 : 18名 (地域隊長以上 幹部)
- 義消防 (男, 女) 組織整備 : '95. 1月 中

○ 消防活動 強化

- 火災 迅速 出動
- 山火等 災難時 支援 出動
- 地域單位 奉仕活動 積極 參與

○ 士氣振作策 講究

- 懇談會 및 對話의 時間運營 : 年 2回
- 子女獎學金 支給 : 現行隊員數 5% ⇒ 7% 上向 選拔支給
- 先進地 見學, 表彰, 體育行事, 激勵書翰 發送
- 市・區政 參與機會 擴大

□ 어린이 消防隊 內實化

◦ 어린 時節부터 불조심生活化 習慣 培養

◦ 學校어린이 消防隊 組織整備 및 士氣振作策 講究

○ 內實있는 組織運營

- 消防隊 組織整備 : 3月中
- 어린이 消防安全教室 運營 : 4回
- 示範學校 設置 擴大 : 4個所
- 指導教師 懇談會 開催 : 1回
- 消防弘報要員 活動 : 自體計劃에 依據 實施

○ 士氣振作 方案 講究

- 어린이 野外修鍊會 開催 : 4回
- 垂範隊 및 隊員 表彰 : 11月 消防의 날 行事時
- 消防有關團體와 姉妹結緣 : 1個隊
- 消防技術競演大會 開催 : 4回

□ 自衛消防隊 組織強化

- 地域 및 職場 責任防護의 具現
- 職場自衛消防隊 自體 火災鎮壓能力 培養

○ 職場自衛消防 組織의 整備 補強

- 職場自衛消防組織의 整備補講：年中
- 對象處 規模와 實情에 맞는 組織 編成 指導：民防衛隊, 豫備軍, 自衛消防隊等 統合推進
- 休日・夜間等 脆弱時間 消防活動組織 別途 構成
- 訓練指導時 編制運營의 適正性, 消防計劃書와 實效性 檢討 補完

○ 職場防火管理業務 指導監督 強化

- 防火管理者 法的資格者 選任 指導
- 防火管理者 業務・責任 履行與否 確認

○ 火災 初期鎮壓 活動能力 向上 指導

- 合同訓練：大型脆弱順位 3% 内外 (年 1回)
- 指導訓練：大型脆弱順位 10% 内外 (年 1回)
- 自體訓練：合同, 指導訓練外의 全對象 (分期 1回)

□ 義勇消防大賞 施賞

- 消防活動에 獻身奉仕한 模範義勇消防隊員과 防火管理者 發掘 施賞
- 消防要員으로서의 自矜心과 士氣昂揚을 通한 自律消防態勢 擴散

○ 行事概要

- 名稱：義勇消防大賞
- 主管：韓國消防安全協會, 韓國消防檢定公社 (內務部 後援)
- 施賞內容
 - └ 對象：2 名 (義消防員 1, 防火管理者 1)
 - └ 動格：長官表彰 (施賞金 100萬원, 副賞 30만원)
- 施賞式 (日 時, 場所：別途 示達)
 - ・ 參席：內務部長官, 受賞者 夫婦, 義消防 關係者等
 - ・ 內容：施賞, 受賞者 午餐等

○ 對象 選定方法

- 選拔基準：火災鎮壓, 人命救助, 豫防活動等에 功이 많은 者
- 推 麗：對象者를 嚴選하여 復數推薦
- 選 拔：推薦對象者를 中央審査委員會에서 審義 選拔

特 殊 施 策

福祉施設等 修理奉仕班 運営

福祉施設 및 어린이놀이터等の 不良施設을 整備・補修해줌과
아울러 消防教育等を 통한 敬老思想의 鼓吹는 勿論 火災豫防
을 爲한 弘報 效果의 舉揚과 對市民 奉仕消防 이미지 提高

○ 推 進 方 向

- 週 1回 定期 巡廻 補修 實施
- 經微한 施設等の 無料 現場整備
- 消防教育等 並行 實施

○ 維進計劃

- 運營對象
 - ・ 福祉施設 및 어린이놀이터 施設等
- 巡廻奉仕班 編成
 - ・ 巡廻奉仕班：署別 1個班 編成
 - ・ 班編成：3名 (派出所要員 包含)
- 巡廻整備 및 弘報教育
 - ・ 回數：週 1 回
 - ・ 方法：經微한 事項現場即時整備・補修, 教育, 民願代行處理等

○ 期待效果

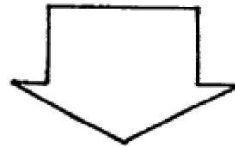
- 敬老思想 鼓吹 및 民・官 紐帶 強化
- 어린이 消防教育等を 통한 消防弘報 效果 舉揚
- 對市民 奉仕消防行政의 이미지 提高

○ 所要豫算

修理裝備, 所要備品等 約 4,000千원

다 짐

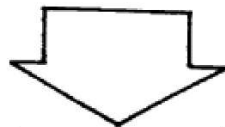
市民과 함께하는 親近한 奉仕消防



未來指向 消防의 構築

自律消防 制度의 定着

奉仕消防 領域의 擴大



世 界 化 元 年 의 해